

【緑地を楽しむ本】

『ちいさな ちいさな』

ニコラ・デイビス文 エミリー・サットン絵
ゴブリン書房



副題は「めに みえ
ない びせいぶつの
せかい」

微生物について、
子どもに説明するの
はなかなかむずかし
いと思うのですが、楽
しく解説されていま
す。「びせいぶつは、
どこにでも いる。う
みにも、りくにも、・

中略・れいぞうこの うらがわとか」「スプーンいっ
ぱいの つちのなかには、10おくもの びせいぶつ
いる。これは、インドの くにしじゅうのひとをぜんぶ
あつめたくらいの かずだよ」とか。

圧巻は、増え方を説明したページですが、5ミリほ
どに描かれたひとつの微生物（モデルは大腸菌）

が分裂していくのです・・11時間30分たつと、20セ
ンチ四方の中にいっぱい、その20分後の様子は・・
その2倍になってます、見開きのページいっぱい
です！

そして、微生物がやってのける大きなこととして「や
まを すりへらしたり、がけを つくりあげたり、うみを
あかく そめたり、そらを くもらせたり、ゆきを ふ
らせたりだつて できる。」

私もえっ？ と驚きました。そんな大人のための解
説ページもちゃんとあります。

緑地のふかふかの土の上を歩く時、「ああ、誰か
ががんばっているなあ」と、ミミズや目に見えない生
きものの存在を感じてはいましたが、これからはもつ
と感謝しなくちゃなあと思った本です。

（遠藤）